２０１２／０４／０８　　イースター礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：よみがえりの救い主
聖書箇所：ルカの福音書　２４章４４－５３節

十字架に架けられたイエス・キリスト、約６時間が経過しました。息もたえだえの主イエス・キリストはその断末魔の中、不思議なことを言われました。「完了した」と。恐らく、そのことばを聞いていた多くの者たちは「この人は何を言っているのだろう？」と不思議に思ったことでしょう。十字架の上で苦しみの絶頂にあって、彼の口から出てきたことばは「完了した」だったからです。この「完了した」とは「仕事をやり終えた、計画や約束などを実行した、果たした、また、仕事や義務などを遂行した、完成した」と、そのような意味をもったことばです。十字架の上で今まさに息を引き取ろうとしておられたイエス・キリストが口にされたことは、「わたしは人としてこの地上に来たすべての目的を成し遂げた。」「地上にやって来たその目的を果たし終えた。」ということでした。まさに、この「完了した」ということばは罪に対する主イエスの勝利の宣言でした。高らかに勝利を宣言されたのです。私たち人間がどうすることも出来ない罪に対する救いを備えることができたと。

主イエス・キリストは十字架で亡くなった後、約束通り、三日後にその死からよみがえって来られました。だから、私たちはこうして日曜日の朝集まるのです。新約の時代になってから約２０００年、人々はイエス・キリストの復活を記念して日曜日を祝うようになりました。復活を目の当たりにした人々は日曜日に復活を記念して、主を崇めるようになりました。主が約束されていたように、その死より三日後によみがえって来られました。このよみがえりは罪に対する主イエスの勝利の証でした。勝利を宣言されただけでなく証されたのです。死から敢然とよみがえることによって、イエスはご自分がだれであるかを明らかに示されました。

主イエス・キリストはよみがえった後、４０日間この地上にいて、人々の前でご自分が肉体をもってよみがえったことを明らかにされました。４０日間が必要だったのです。メッセージを聞いていても、イエスのおことばを聞いていても、実際に、そのよみがえりの主を目で見るまでは信じることができなかったからです。死んだ人間がよみがえって来る、完全に死んだ人間がその死からよみがえって来る、人々は信じられませんでした。しかし、イエス・キリストは約束通り、その死からよみがえって、そして、ご自分がいったいだれなのかを明らかにされたのです。主イエス・キリストは昇天なさるその前に、弟子たちに、そして、使徒たちに最後のメッセージを語っておられます。そのメッセージは次のようなメッセージです。「忠実でありなさい」と。主は忠実さについてお語りになったのです。

今日私たちが見ていくルカの福音書２４章４４節から最後の５３節までのみことばに、私たちは二つのことを見ることが出来ます。一つは、「証明された忠実さ」です。神がいかに忠実で約束を必ず守られるお方であるか、そのことが証明されました。もう一つは、「要求された忠実さ」です。神は弟子たちに対して、神に対して忠実であることを要求しました。それがこの４４節から記されているメッセージです。よみがえりの主がお語りになった最後のメッセージをごいっしょに見て行きましょう。

☆主イエスの最後のメッセージ
Ａ．証明された忠実さ　：　神の真実さが証明された　　４４節

４４節には「証明された忠実さ」が記されています。**「さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」**、主イエス・キリストが最後にお語りになったことは、その当時存在していた旧約聖書のみことばを通して、この一連の出来事、十字架も復活もすべてが偶然ではないということを明らかにした、そのことです。それは神によって預言されていたことであり、そして、その預言の成就を見ることによって、このイエス・キリストこそが約束の救い主であること、約束の救世主であるということを弟子たちの前で明らかにされるのです。

ちょうど、エマオに向かっていた二人の弟子たちに主イエス・キリストがお話しになった時も同じでした。同じルカの福音書２４章２７節にはこのように記されています。２７節**「それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。」**と。同じことを主はなさったのです、旧約聖書のおことばをもって、すべては預言の成就なのだとそのことを明らかになさいました。確かに、旧約聖書の中を見るときに、私たちはこの救世主に関する約束を見ます。

・アブラハムの子孫であること　　創世記１２章
・イスラエルの１２の部族のうちのユダ部族から出て来る　　創世記４９章

・ダビデの家系から生まれる　　Ⅱサムエル７章
・処女から生まれる　　イザヤ７：１４
・ベツレヘムに生まれる　　ミカ５：２
・人間によって苦しめられ殺される　　イザヤ５３章
・十字架に架かったとき、彼の着物は分けられる　　詩篇２２篇
・死からよみがえる　　詩篇１６：１０、８９：４、１３２：１１，１２、１１０：１

イエスが使徒たちや弟子たちにお語りになったことはもっとたくさんあるでしょう。しかし、このようにイエス・キリストは旧約聖書のみことばを通して、神は約束なさったことを必ず実現なさるということを明らかにしました。それが聖書の教える神です。我々人間とは違うのです。神は言われたことは必ず為さるのです。だから神なのです。神が罪を赦すと言われたら絶対に赦されるのです。この聖書が私たちに神のメッセージを伝えてくれています。創造主なる真の神が私たちに与えてくだったこの聖書が私たちに、神が私たちに何を教えようとしておられるのか、その真理を教えてくれるのです。

聖書は警告します。「必ず、人間の罪はさばかれる。必ず、あなたの罪はさばかれる。」ということを警告します。だから、救い主が送られて来たのです。あなたの罪がそのままで死んで終わってしまうのだったら、わざわざ救い主など必要としません。しかし、救い主が来られたという事実は、神はあなたのすべての罪をご存じであり、そして、あなたに警告をしておられるということです。あなたの罪は必ず主によってさばかれるということです。主はあなたのすべての罪を知っておられるのです。あなたが行なったことだけでない、あなたが想像したことも、あなたが考えたことも、あなたが口にしたこともあなたのすべてを見ていらっしゃる真の神が、それに対してさばきを下されるというのです。だから、救世主を送ってくださった。その罪からあなたを救い出すために。

ここでイエス・キリストは、ご自分がその約束の救世主だということを明らかにしてくださった。そして同時に、神は約束を必ず守られる忠実な方だと、そのことを私たちに言うのです。主イエス・キリストはこのようなことを言われました。マタイの福音書５章１８節**「まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。」**と。ここでイエスが何を言われたのか？この当時に完成していたのは旧約聖書でした。ですから、旧約聖書の無謬性というものを明らかにしたのです。つまり、これは神のメッセージであり、ここに記されていることは必ずそのようになるということを言われたのです。なぜなら、全能の神が記されたのです。どんなことでも出来る神が記されたのです。そこに記されていることは必ず成されるのです。**「一点一画」**とうことばを使っています。「一点」とはヘブル語のアルファベットの中で最も小さな文字です。点のようなものです。「一画」とは記号です。それさえも神が与えたものだから必ず成就すると、そのことを言われたのです。

そして、今私たちはイエス・キリストの十字架を見、そして、イエス・キリストの復活を見たときに、確かに、神は言われたことをその通りになさる忠実な神だということを、弟子たちとともに改めて教えられるのです。皆さん、聖書に記されていることは必ず実現します。だから、私たちはこの聖書に信頼を置くことが出来るのです。聖書が言うことを信じることが出来るのです。なぜなら、これは神のおことばだからです。本来、この事実は私たち信仰者の心を慰め、我々信仰者の心に平安をもたらします。「神がおっしゃっているのだから信頼しよう、神がおっしゃっているのだから任せておこう」と。皆さんはそのように生きておられますか？心が騒ぐ時でもどんな時でも「神がおっしゃったから私はこの約束を信じる」と、そのように歩んでおられますか？恐らく、私たちがこの地上にいて学び続けていくことは「神に信頼する」ということです。ある人は病を通して、ある人はいろいろな困難を通して、様々なことを通して私たちは自分の力がいかに神の前に空しいものか、そのことに気づかされます。「私たちには神が必要だ、神の助けが必要だ」ということを神は教え続けてくださるのです。私たちはそのことを学んで来たし、これからも学んでいきます。

信仰者の皆さん、是非覚えてください。主が最後にお話しになったことは「十字架も復活も聖書の約束通りだ。神の約束は必ず成る。それが神だ。」ということです。神はご自分が言われたことを必ず実現なさる忠実な方だ、そのことを教えます。

Ｂ．要求された忠実さ　：　神に対して忠実であることが要求された　　４５－５３節

神ご自身は忠実な神です。おっしゃったことを確実に守って来られた方であり、これからも守られる神です。今度はその神が私たちに言うのです。「わたしに対して忠実でありなさい」と。この主が４５節から教えておられることを見る前に、しばらく、この「忠実さ」について考えましょう。

【忠実さについて】

１．忠実さは救いの証明

イエスを信じている皆さんは恐らく、主に対して忠実であり続けていきたいという思いを持っておら

れることと思います。失敗ばかりするけれど、自分の罪深さにいつも気づかされるけれど、それでも、心の中に「私は神さまに喜んで従っていきたい、神さまが喜ばれることをやっていきたい」という思いを持っておられるはずです。なぜなら、そのように忠実に生きていきたいという思いは、あなたが救われていることの証拠だからです。

マタイの福音書２４章に、二人のしもべのことが記されています。４５節から**「主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な思慮深いしもべとは、いったいだれでしょうか。:46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。」**とあります。**「食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な思慮深いしもべ」**、つまり、「賢いしもべ」ということです。ここで言われている「賢いしもべ」とはイエス・キリストを信じ救われているクリスチャンたちのことです。なぜなら、その後を見ると、もう一人のしもべが記されているからです。４８節**「ところが、それが悪いしもべで、『主人はまだまだ帰るまい。』と心の中で思い、:49 その仲間を打ちたたき、酒飲みたちと飲んだり食べたりし始めていると、:50 そのしもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。:51 そして、彼をきびしく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ぎしりするのです。」**、ここに記されているしもべは「不忠実」なしもべです。この人は神のさばきに会うと記されています。つまり、彼は救われていなかったのです。ですから、神によって救われているかどうかということは、その人のうちに神に対して忠実に従っていきたいという思いがあるかどうかです。

主はこのようにもおっしゃっています。ルカ８：２１**「ところが、イエスは人々にこう答えられた。「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことばを聞いて行なう人たちです。」**、肉体的な母や兄弟のことではありません。霊的なことです。「わたしに属する者たち」のことです。同じ家族に属する者たちのことです。それは「神のことばを聞いてそれを行なう者たち」だと言います。これが神の家族の一員である、つまり、救われている証拠であると言うのです。また、ヨハネ８：４７には**「神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」**とあります。ですから、みことばははっきり私たちに教えます。主に忠実に従っていこうという思いを持っていることは、その人が救われている証拠だと。繰り返しますが、確かに、私たちの歩みは完全ではありません。失敗の連続であり、そして、日々神を悲しませることを行なっているような愚かな罪深い者です。しかし、救われた者たちの心の中には「それでもこの方に従っていきたい」という思いがあります。だから、私たちは罪の告白をするのです。また罪を犯せば告白をするのです。何度でもそのようにして神に喜んでいただきたいから、喜ばれるように歩んでいこうとするのです。それはその人が救いに与っているからです。

２．忠実の模範

また、実際に忠実に生きた者たちの模範を聖書は私たちに教えてくれています。

１）パウロの遺言：彼の遺言とされているⅡテモテ４：７にはこのように記されています。**「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。」**と。パウロは三つの表現を使って同じことを言わんとしています。それは「忠実」ということです。**「勇敢に戦い、」「走るべき道のりを走り終え、」「信仰を守り通しました。」**と、パウロはスポーツが好きだったのでしょう。このようにスポーツの例えを用いながら信仰の話をします。勇敢に戦い続けて来た、そして、走るべき道のりをしっかりと走り終えた、忠実に歩んだということを言っています。そして、最後の「信仰を守り通した」というのは管理者としての表現を使っています。管理者として託された責任を忠実に果して来たと、パウロはそのことをここで言うのです。ですから、今まさに、この地上での人生が終わろうとしていたパウロは、自分の信仰者としての人生を顧みて「不完全だったけれども私は神の前に忠実に歩んで来た」と、そのような告白を最後にするのです。

２）主イエスの模範

私たちの主イエスを見るときに、彼もそうでした。モーセが主から与えられた務めに忠実に従ったように、私たちの主も同じように忠実に歩まれました。ヘブル３：２にこのように記されています。**「モーセが神の家全体のために忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実なのです。」**と。ですから、モーセを見てもパウロを見ても、そして、我々の主を見ても彼らはみな忠実に歩んだのです。このよみがえりの主が私たちに言うのです。「あなたもそうありなさい。あなたも主に対して忠実でありなさい」と。

３．忠実であるために　：　二つの大切なこと

非常にベーシックなこと、基礎的なことですが、次の二つのことをもう一度思い出してください。私たちが主に対して忠実であり続けるために、

１）みこころを知ること

私たちが忠実に生きようとするなら、神が何を命じておられるのか、それを知らなければ忠実に歩め

ません。忠実に生きるというのは「神のみこころに対して忠実に生きる」ことですから、それを知らなければ何をしていいのか分かりません。だから、私たちは神のみこころを正確に知ることが必要です。皆さんはこうして今日礼拝に集まって来られました。間違いなく、主を崇めるために集まって来られました。同時に、主のみこころを知るために集まって来られたはずです。主のみこころを知り、そのみこころに従うことによって、あなたは主の栄光を現わすことが出来ます。あなたはそれによって成長して行きます。主のみこころを知り、それに従うことによって。だから、私たちはこうしてみことばを聞く時に、他のことを考えていてはならないのです。私たちは礼拝堂に座っていても、いろんな思いが浮かんで来ます。雑念が入ってきます。もし、皆さんが忠実でありたいと願うならば、神のおっしゃっていることを正確に聞かなければいけません。そうでなければどのようにして忠実に歩めますか？残念ながら、サタンはそのような歩みをあなたが為して行くことを望まないし、あなたの肉はそれを望みません。だから、様々な思いが皆さんの脳裏に湧き上がって来ます。第二礼拝なら昼食のことかもしれないし、午後のことかもしれません。いろんなことが心に浮かんで来るのです。私たちはここに座りながらこのような祈りをもって、主のみことばに耳を傾けなければいけないのです。それは「主よ、どうぞ私から雑念を取り払ってください。私はあなたの前に忠実でありたいし、あなたのみこころに従っていきたい。そのためにはあなたのみこころを正確に知らなければいけない。だから助けてください」と。そのような思いをもって私たちは主の前に静まり、主のみことばに耳を傾けているかどうかです。礼拝に来ても眠っていてはどうして主に忠実に歩んで行くことが出来ますか？ここに来ることが目的の人はそれに満足されているでしょう。「やっと礼拝堂に来た、やっと礼拝に参加することが出来た。」と。でも、それが目的ならあなたは大切なことを見落としています。そんなことのために私たちは集まって来ているのではありません。私たちがここに集まって来ているのは、神のみことばが説き開かれて、そして、その神のおことばを聞くことによって、神のみこころを知り、私たちは決心をもってここを出て行くのです。「主よ、私はあなたのみことばに従って、あなたのみこころを行なっていきたいです。」と。

私たちの普段の生活の中でも、翌日に大切な用事があれば前日の晩は早く寝ます。重要な人に会わなければいけないとか、そうすると私たちは体調を整えようとします。私たちはこうしてともに集まって神のみこころを知ろうとしているのです。神を礼拝するためにこうしてともに集まっているのです。もちろん、礼拝は日々のことです。しかし、週の初めの日に、復活の主を覚えて私たちはこうして集まって来ています。どのような思いをもって私たちは主の前に立っているかです。主のみことばが語られるときに私たちは本当にそれに集中して「主よ、どうぞお語りください」という思いをもって聞いているかどうかです。そうでない人がどうして忠実に歩んでいると言えますか？私たちが忠実に歩み続けようとするなら「主のみこころを知ること」です。

２）素直であること

私たちが主に忠実であろうとするなら、みこころを知るだけでなく、私たちは常に素直であることです。私たちがみことばを聞くときに、私たちが忘れてはならない心の態度は「主よ、どうぞ私をみこころのままに変えてください」という願いをもって聞くことです。頑な心には神は働けないのです。「私は十分です。もう信仰の歩みとして十分です。」と、もし、そのようにして心を頑なにしておられる方がいるなら、残念ながら、主はそのような心の態度を喜んでおられません。なぜなら、みことばはすごい働きをするからです。皆さんがよくご存じのⅡテモテ３：１６に**「聖書はすべて、神の霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。」**、つまり、みことばというのは皆さんの心の中に働いて、主のみわざを成そうとするのです。あなたの罪を示してくださり、あなたを救いへと導こうとされるのです。あなたを変えようとされるのです。そのような力を持っているのがこのみことばなのです。

悲しいことに、今キリスト教会の中を見るときに、日本だけでなく世界的な傾向ですが、月曜から土曜まで仕事をして疲れきっていて、会社では上司からガミガミ言われるから、教会に来てまで罪が責められたりするのは真っ平、教会では慰められ励まされたいと言って、そのようなメッセージを求める者たちが増えて来ているし、また、そのような話を提供する教会が増えているのです。どうすれがいいのでしょう？その場合はみことばから離れなければいけません。なぜなら、もし、みことばを正しく伝えるなら、みことばが計画しているみわざを私たちの内に為すからです。罪があればそれを示します。正しい方向へと導こうとするのです。あなたを変えようとするのです。それが聖書のみわざなのです。なぜなら、イエスを信じたその瞬間から、私たちはキリストに似た者へと変えられ続けていくのです。そのわざを為すのはみことばであり、あなたのうちにいる聖霊なる神です。

信仰者の皆さん、だから、私たちは真剣に主のみことばに耳を傾け、そして、いつも祈り続けるのです。「主よ、どうぞあなたのみことばを教えください。あなたの約束された悟りを与えてください。そして、どうぞみこころに従って私を変えていってください。」と。主に対して忠実に歩んでいく、そのすべては私たちの心から始まります。そのような神の前に謙虚な心を持っている人たち、そういう人たちを

主は変えて行かれます。そういう人たちは主に対して忠実に歩んでいきます。
　さて、「忠実さ」ということについてこのように見て来ましたが、もう一度みことばを見ましょう。
☆主の教え　　４５－５３節
　「忠実であれ」というのは神の命令です。ですから、私たちはしっかりと耳を傾けることが必要です。４５節から５３節まで、主は二つのことを教えておられます。一つは、「世界宣教計画の開示」です。もう一つは、「世界宣教計画の実行」です。
１．世界宣教計画の開示　　４５－４７節
　４５－４７節を見ると「主の世界宣教計画」が明らかにされています。４５－４６ａ節**「そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、:46 こう言われた。」**、大切なことだから、彼らが正しく理解するために、主ご自身がそれぞれの心に働いたのです。この大切なメッセージを理解するために、今皆さんの心にも主が同じように働いておられることを期待します。そして、ここで主は福音メッセージの内容を明確にし、そして、福音メッセージの拡大を約束されます。
１）福音メッセージの内容
　４６－４７節に**「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、…」**とあります。お聞きになったように、主イエス・キリストは救いのメッセージがどのようなものかをここに記してくださいました。この世界のすべての人々に語るべきメッセージ、それがここに要約されています。それは「救いのメッセージ」です。「自らの罪を悔い改めて、イエスの十字架とよみがえりによって備えられた完全な救いを、心から感謝して信じ受け入れること」です。主イエス・キリストが十字架で死なれたのはあなたの身代わりでした。あなたを救うために主はご自分のいのちを捨ててくださった、そして、三日後によみがえることによって、この方が真の救い主であることを明らかにしてくださったのです。なぜなら、だれも死からよみがえって来ることはできません。できるのは神だけです。そのよみがえりによって、この方が神であること、この方が言われていた通り、あなたや私の罪を赦してくださる救い主であることを明らかにしたのです。
　そして、**「その名によって、」**、このイエスによって、**「罪の赦しを得させる悔い改めが」**、罪を悔い改めて、このイエス・キリストの身代わりによって信じるすべての人に与えられる救いを受け入れるようにと私たちは語るのです。ですから、この４６－４７節には「救いのメッセージ」が記されています。罪人が救われるメッセージが記されています。あなたが罪から救われて、そして、生まれ変わり永遠のいのちをいただくそのメッセージがここに記されています。あなたが罪を悔い改めて、あなたのために十字架で死んで、そして、よみがえったイエス・キリスト、この十字架と死によって、そして、復活によって備えられたこの完全な救いを、あなたが心から感謝して信じ受け入れることです。そのときに神はこの救いを与えてくださるのです。
２）福音メッセージの拡大　　４７ｂ節
　４７節の後半に**「エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」**とあります。始まりはエルサレムです。そこから世界中に宣べ伝えられるのです。使徒の働き１：８のみことばを思い出しませんか？**「そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」**、同じことです。なぜなら、同じ人が書いたからです。ルカの福音書２４章を記したルカはこの「使徒の働き」を記しています。同じことを言うのです。「これが神の計画だ」、このすばらしい救いのメッセージはイスラエルだけでない、世界中に広がっていくと。そして、感謝なことに、この日本に私たちの所にも届いたのです。世界宣教、その福音のメッセージが広がっていく様子が記されています。いくつかの箇所を見ましょう。ローマ１５：２０**「このように、私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名がまだ語られていない所に福音を宣べ伝えることを切に求めたのです。」**、使徒の働き１９：１０**「これが二年の間続いたので、アジヤに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた。」**、１９：２０**「こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力強くなって行った。」**、これが神の計画だったのです。
２．世界宣教計画の実行　　４８－５３節
　４８節に今度は世界宣教計画の実行へと話が移っていきます。
１）主からの使命　　４８節
　神ご自身が言われます。「わたしはこのような計画を立てている。そして、その計画を実行するために、これがわたしの考えだ。」と。それが４８節のみことばです。
・「証人」:
使徒１：８**「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」**
使徒２：３２**「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」**
使徒３：１５**「いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たち**

はそのことの証人です。」

「わたしの証人」、「そのことの証人」、「私たちはそのことの証人です。」と。ルカ２４：４８には**「あなたがたは、これらのことの証人です。」**とあります。神は何を望んでおられるのか？何を為そうとしているのか、そのことを明らかにした後、その計画を実行するためにだれを用いるのかを明確に教えています。４８節は主からの使命です。**「あなたがたは、これらのことの証人です。」**と。**「証人」**とは見たことを伝える、聞いたことを伝える人です。人々はそうしてこの福音を語って来ました。彼らは出て行って「イエス・キリストは私の身代わりとなって十字架で死に、そして、約束通り三日後によみがえってくださった救い主だ。そして、このイエス・キリストの前に自らの罪を悔い改めて、この備えられた救いを信じるときに罪が赦される。そして、私は赦されたのだ！」と、彼らはその救いのメッセージを伝え続けて行ったのです。その通りやりなさい、「あなたがその証人だ」と言うのです。

あなたが覚えておかなければいけないことは、難しいことを語れと言われているのではありません。「証人」、それがあなただということです。つまり、主があなたにしてくださったことを話していくのです。あなた自身が主によって経験したことを語っていくのです。神は私の罪を赦してくださった、そのことを人々に証して行くのです。それが主がここでお話しになったことです。

・「宣べ伝える」:

もう一つのことば「宣べ伝える」ということばが４７節の最後に出て来ます。このことばは「自分を遣わした人のメッセージを伝える」ということです。そのメッセージを変えてはいけないのです。だから、私たちは神のメッセージをその通りそのまま伝えようとするのです。私たちは皆さんに自分の考えを伝えようとしているのではないのです。神がおっしゃっていることを伝えようとするのです。なぜなら、それが神が私たちに教えておられることだからです。「宣べ伝えなさい」と、神のメッセージを変えてはいけないのです。私たちの務めは、大きな声でそのメッセージを伝え続けていくことです。ということは、皆さんがだれかに話すときに、「私はこう思う」とか「私はこのように考える」ではなくて、「神さまがこのようにおっしゃっている」と言うのです。私たちの人生に関して神がこうおっしゃっている、我々が死を迎えたときにどうなるのか、神がこうおっしゃっている、我々が罪を負っているならば、その罪がどうなるのか？神がこうおっしゃっている、どうすればこの罪の赦しを得ることが出来るのか、神がこうおっしゃっていると、そのように語りなさい、宣べ伝えなさいと言うのです。このような使命を私たちは主からいただいたのです。そのことが４８節にあります。

２）主からの援助　　４９節

４９節には「主からの援助」を見ます。神は私たちにこんなに大きな使命を与えてくださった。でも、私たちの弱さを知っておられます。４９節**「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」**、何のことを言っているのでしょう？使徒の働き１章にもありました。１：４**「彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」**、聖霊が与えられるという約束を主はここで人々に語るのです。つまり、私たちがこのキリストの証人として、この福音のすばらしいメッセージを宣べ伝えていくためには、私たちには助けが必要です。そのことをご存じである神は、あなたのために私のために聖霊という助け主を与えてくださったのです。

非常に興味深いことは、弟子たちは「これぐらいのメッセージだったら語れます」と言って出て行かなかったことです。弟子たちはその約束に従って、聖霊が来るまでエルサレムに留まっていたのです。普通は「出て行って語ることぐらい」と思うかもしれませんが、このときにはまだ彼らには聖霊が与えられていないのです。私たちは違います。信じたときに与えられました。彼らは聖霊なる神をいただくまで、神が「待ちなさい」と言われたから彼らはその日を待ったのです。彼らがいかに主に対して忠実でありたいと願っていたのか、このときにもそのことが見られます。

私たちが主の務めを為すために必要なのは「主の助け」です。神はそれを私たちに与えてくださいます。ですから、私たちはいつもこの方が私たちの心を支配するように、満たし続けてくださるように祈り続けることと、いつも私たちはこの助けをもらえるように、この方の前にその助けを求め続けていくことが必要です。主から与えられた使命、主から与えられた援助、助けを見ました。

３）主からの確信　　５０－５３節

そして、５０－５３節を見ると、「主からの確信」へと移っていきます。**「:50 それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。:51 そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。:52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。」**、５２節に**「非常な喜びを抱いて」**とありますが、そのことばの前に「イエスを礼拝し」と言うことばが入ります。新改訳聖書の欄外を見ると、異本に「イエスを拝し、そして…」を付け加えられると書かれています。皆さん、その様子を思い描くことが出来ると思います。イエス・キリストは昇天して行かれたのです。そのとき

に弟子たちがしたことは、この方の前にひざまづいて礼拝をささげることだったのです。なぜなら、弟子たちはイエス・キリストの十字架を見たのです。体中から血が溢れ出て十字架で亡くなったイエスを、そして、その死の三日後よみがえって、肉体をもってよみがえったことを４０日間示し続けてくださった主、彼らはそれを見て確信したのです。同時に、主が最後に旧約聖書のみことばを用いて、このすべての出来事は旧約聖書に約束されていた通りだと、そのことを教えてくださったのです。そして、今まさに、主イエス・キリストは約束されたように天に凱旋されようとしているのです。その様子を見ていた彼らは、この方の前にひざまづくのです。これこそ私たちの理想とする礼拝だと思いませんか？強制されてではないのです。形式的な礼拝でもないのです。主を心から崇めたのです。

そして、彼らは非常な喜びに満たされていつも神をほめたたえていたのです。これまで彼らは自分のいのちが狙われているという事実を恐れていました。殺されたらどうなるのかと不安視していました。ところが、彼らはそのような不安から解放されて、「私たちは死んでも生きる。なぜなら、私たちの主イエス・キリストは十字架で死んだ後よみがえって来た。この方を信じる私も死んでも生きる！」というその確信をもって歩み出す者へと変えられたのです。「死に勝利されたお方、それが私の神だ！」と、彼らが大変な喜びに満たされていたことがここに記されています。

新約聖書の権威者であるゲルデン・ハイツという教授はこのように言います。「根絶やしに出来ない喜び、神の栄光を現わすことへの押えられない切望、深い感謝の念、これは初代クリスチャンの実生活の特徴であった。それゆえに、私たちの心や実生活にこれらの特徴を備えている者だけが本当のクリスチャンである」と。この初代クリスチャンたちのように、心の中に常に喜びがあり、神の栄光を現わし続けていきたいという強い願いを持ち続け、そして、心から神に感謝している、それが本当のクリスチャンの特徴であると。

ジョン・マッカーサー先生はこんなことを言います。「私たちは学びや教え、健全な教理についてのものを読んだり理解するといった良いことに熱中しがちである。私たちは礼拝、神への賛美、クリスチャンの音楽といった良いことに熱中する。交わりや生活をともにしたり、互いの成長に励んだり、賜物を用いて互いに仕え合ったり、慰め合ったり励まし合ったりという良いことに熱中する。祈りに熱中する。教会の成長のためにあらゆる種類のクリスチャンの奉仕に没頭したりする。私たちは生活における清さを追い求める。これらすべてのことは私たちへの命令として聖書の中に記されているが、どれもゴール、目標ではない。これらすべては目標への単なる手段であり、目標は福音を宣べ伝えることであり、信頼される生活や霊的高貴さでその宣教を支えるのである。私たちは福音のメッセージを信じられるようにするために、このような生活をするのである。」と。良いことはたくさんあります。でも、私たちはある一つのゴールのために、目標のためにすべてのことをするのです。私たちはこのイエス・キリストのすばらしい救いを一人でも多くの人々に知っていただくためにすべてのことをするのです。そのために私たちは自分の生活に注意するのです。この福音のすばらしい知らせが人々に広がっていくために、自分の言動に注意するのです。私たちが覚えなければいけないこと、私たちが最優先しなければいけないことは、このすばらしい救いのメッセージを人々に伝えていくということです。

信仰者の皆さん、どうぞ、この後お帰りになって、手紙を書くなり電話をするなり、もしかするとだれかを訪問しなければいけないかもしれません。私たちの愛する家族や友人たち、まだ、この救いを知らない人たちにこの救いを語ることです。主がそれを望んでおられるのです。それを私たちに命じられたのです。この救いがなければ人々は永遠の地獄に向かっているからです。そして、神は「あなたを使う」と言われたのです。その助けも備えてくださった。だから、私たちに必要なことは出て行くことです。ジョン・マッカーサー先生はこうも言います。「この地上において私たちが出来て、天国では絶対にしないある一つのことがある。それはイエスを知らない人たちへの伝道である。だから、私たちはみな宣教師なのである。」と。皆さん、そう思いませんか？この宣教の働きが終わるのは天に上がったときです。なぜなら、天には救いを必要とする人はいないからです。ここには山ほどの人がいるのです。この世界には救いを必要とする人が溢れているのです。

よみがえりの主が昇天なさる前に弟子たちに与えられた最後のメッセージ、「十字架で死によみがえった唯一の救い主を伝えなさい。この救いのメッセージを伝えなさい！」と。皆さん、出て行くことです。福音を語ることです。もちろん、私たちは祈ります。しかし、私たちに必要なことは、この口を開いて、この重い口を開いてイエス・キリストによる救いを語ることです。それが主の命令です。その命令に忠実に従うかどうか、それは私たちが決めなければいけないのです。「忠実でありなさい！」、主はすべてのことにおいて忠実でした。そして、忠実さをあなたや私に要求なさる神、そのような歩みをもってこの地上の歩みを終わりましょう。どれだけ神が置いてくださるか私たちは分かりません。しかし、分かっていることは「今日という一日はある」ということです。だれかにこのすごいすばらしい救いを語りましょう。今日からです！

《考えましょう》

１．「主は約束を必ず守られる」という証明された事実を確信できないのはどうしてでしょう？

２．「主に忠実である」ためには、どうすれば良いとあなたは思われますか？

３．福音を宣べ伝えることを躊躇するのはどうしてでしょう？また、それを克服するためにはどうすれば良いとあなたは思いますか？